

「2017年度第3四半期決算」テレフォンカンファレンス

主な質疑応答

1. 受注工事損失引当金について、セグメント別の繰入・取崩・残高計上は？

- ・ 下表のとおり。

(単位：億円、億円未満切り捨て)

	2017年3月末 残高	FY2017.1-3Q 累計		2017年12月末 残高
		繰入	取崩	
資源・エネルギー・環境	182	161	171	172
社会基盤・海洋	176	13	140	49
産業システム・汎用機械	9	△2	2	4
航空・宇宙・防衛	3	0	1	1
その他	1	8	5	4

2. 2018年度の営業利益率目標である7%を達成できる自信は？

- ・ 営業利益率7%は高い目標ではあるが、大きな採算変動リスクがある案件数が減少している現状を考えると、これらの案件のリスクを完全にマネジメントすることができれば、来期に達成する実力を有していると考えている。
- ・ そのためには、工事採算下振れを抑えるだけでなく、事業構造改革の遂行やICT・IoTを活用した製品・サービスの高度化による競争優位性の実現などの、現在実行中の施策が業績に貢献する必要がある。

3. 航空・宇宙・防衛セグメントについて(1) 10-12月期に計上した営業利益172億円の内容は？

- ・ 主に以下の三点。
 - ・ 想定比為替円安
 - ・ スペアパーツ売上高増加
 - ・ 好採算エンジン販売台数の増加

(2) 1-3月期の営業利益予想額が10-12月期比で減少する理由は？

- ・ 主に以下の二点。
 - ・ 新型エンジンPW1100G-JMの本格的なコストダウンの実現は来期以降と見ており、今第4四半期は販売台数の増加により採算が悪化する。(第3四半期までの累計販売台数約200台に対し、第4四半期だけで100台超の販売を予定している。)
 - ・ 研究開発費に代表されるような、期末に計上が集中する費用の増加。

(3) 2018年度の方向性は？

- ・ 今期が損益的に最も厳しいというこれまでの見方に変更は無い。
- ・ 来期は、PW1100G-JMの販売台数が今期比で大きく増加する。今期よりもコストダウンが進み、収益に貢献することを期待している。民間航空エンジン市場の成長もあり、セグメント全体では今期と比べて少しは良くなるだろう。

4. 航空・宇宙・防衛以外の各セグメントの1-3月期の方向性は？

- ・ 資源・エネルギー・環境 : 1-3月期の予想営業利益は87億円。
第3四半期までに大きな営業損失を計上したことや、改修工事が多くが期末に計上されることを考えると、妥当な利益水準。
- ・ 社会基盤・海洋 : 1-3月期も第3四半期までと同水準の収益計上を予想。
- ・ 産業システム・汎用機械 : 大きくは無いものの、若干の改善を期待。

5. ボイラ事業の状況は？

- ・ 今期は順調に受注を計上しており、また、手持ちの工事量も豊富な状況。これまでに構築したリスクマネジメントの仕組みが効果を発揮しており、業績に重大な影響を及ぼすような採算悪化は見られない。
- ・ 第3四半期累計の営業利益率は8%程度の水準であり、今後も同水準の営業利益率を維持したい。

6. ターボチャージャー事業について、中国およびヨーロッパ市場における状況は？

- ・ 中国市場においては、生産・売上ともに想定以上の台数であり、当面はこの状況が継続するだろう。
- ・ 一方、ヨーロッパ市場における大きな動きは見られない。これまで同様、今後は悪化する傾向と想定している。

以上